

三重県農家消費動向予測調査結果

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は三重県における農家の消費、所得、貯蓄の実績および計画などを、農家世帯を単位として調査して農家の消費経済の動向をは握することを目的としたものである。

2 調査事項

- (1) 世帯および世帯員に関する事項
- (2) 所得変化の実績および予想
- (3) 消費の実績および計画
- (4) 貯蓄高および貯蓄の計画
- (5) 主要耐久消費財および生産資材の品目別入手実績および購入計画

3 調査の範囲

調査の対象（母集団）は経営耕地面積5畝以上の農家世帯とし、そのうち、次の世帯は調査から除く。

- (イ) 1人で住んでいる世帯
- (ロ) 外国人世帯

4 調査の期日

昭和36年2月1日現在

5 調査の方法

県下の農家世帯の縮図を作ることを目標に24市町村を選びその市町村の中から、2集落抽出選定しその集落内の適格農家世帯約2,800を調査対象とした。そしてその農業集落に配置された、調査員が調査世帯を訪問し、きめられた質問方法によつて調査期間内（2月1日から20日まで）に質問調査を行った。

ただし、調査事項のうち貯蓄高については、調査世帯の世帯主がみずから記入し密封のうえ調査員に提出させた。

6 結果の集計

調査世帯の回答が記録された調査票は、調査員から指導員、市町村を通じて県に提出された2,772世帯について集計を行った。

II 結果の概要

1 消費の動向

(1) 家計費

本県における農家世帯の今後1年間の家計費増減の見通しについてみると「ふえる」と見込む世帯は、全体の63.9%と半数以上に達し、また「へる」と見込む世帯は2.2%と僅少で「変わらない」30.3%となつており、全般的に家計支出の増加見込みが強くこれからも家計費が増大してゆくものと予測される。（第1表）

また、家計費のうちで第1に「ふえる」費目としては、飲食費が全体の29.1%で最も多く、ついで被服費22.8%、住宅修繕費19.2%の順となつている。

なお、「所得階層別」では、比較的所得階層に飲食費がふえるとするものが多く、被服費は高所得階層に進むにつれて増大しており、住宅修繕費はほぼ中所得階層に多く集まつている。（第2表）

これらは、最近の消費水準の伸びと、食料その他消費物価の高騰傾向を反映しているものと思われる。

第2表 家計費のうち第一にふえる費目（所得階層別）

		調査世帯	飲食費	被服費	家具 什器費	住宅 修繕費	教育費	娯楽 費	な い	わから ない
総	数	100.0	29.1	22.8	3.8	19.2	11.1	1.1	6.2	6.7
10万円未満		100.0	31.5	15.4	2.7	18.3	11.3	1.0	10.1	9.7
10万円以上20万円未満		100.0	29.2	21.6	3.1	21.3	9.7	0.7	7.7	6.7
20万円以上30万円未満		100.0	29.3	25.6	4.8	17.7	12.0	1.4	4.6	4.6
30万円以上40万円未満		100.0	30.5	28.8	4.8	16.5	11.7	2.1	3.1	2.5
40万円以上50万円未満		100.0	27.6	30.5	4.3	16.6	12.3	0.7	2.2	5.8
50万円以上		100.0	16.2	27.0	6.8	16.2	21.6	2.7	5.4	4.1
なかつた		100.0	16.7	8.3	16.7	33.4	8.3	—	8.3	8.3
わからない		100.0	23.0	17.5	0.8	28.6	6.3	—	2.4	21.4

(2) 耐久消費財の所有状況と購入実績および購入計画

過去1年間に耐久消費財を購入した世帯に、ついてみると家具・農機具類の主なものはテレビで全体の17.9%を筆頭に、自転車13.4%とつづき、オートバイスクーター6.2%、動力脱穀機4.7%、電気井戸ポンプ4.3%、石油発動機4.2%の順となつている。

また、今後1年間の購入計画をみると、家具類ではテレビ（購入計画率4.5%）、電気洗濯機（同3.6%）、電気井戸ポンプ（同3.1%）、扇風機（同2.7%）であり、農機具類は、動力耕耘機（購入計画率1.5%）、動力脱穀機（同1.2%）、動力カッター（同1.1%）の割合となつている。（第3表、第4表）

一方、耐久消費財の所有状況では、家具類のうち最も多いものは自転車39.3%であり、ついで和洋ダンス82.5%、真空管ラジオ76.6%、ミシン59.5%、テレビ36.7%、電気洗濯機14.5%となり、農機具類では、動力脱穀機48.3%、石油発動機45.7%、動力耕耘機12.7%の順となつている。

また、これらの使用状況を専業兼業別にみると、例えば電気洗濯機（家具類）では、第二種兼業農家が17.7%で多く、少ないのは専業農家の10.5%であり、さらに動力耕耘機（農機具類）では専業農家が25.3%で最も多く、少ないのは第二種兼業農家の2.9%となつている。

今後農村生活の都市化傾向の進展につれて電気機械器具を購入する農家が次第に増大するものとみられる。

第3表 耐久消費財の所有状況と購入計画（家具類）

品目	調査世帯数	所有世帯			過去1年間に入手した世帯	今後1年間に購入計画のある世帯
		1台	2台以上	計		
テレビ	100.0	36.6	0.1	36.7	17.9	4.5
自動車	100.0	38.5	50.8	89.3	13.4	2.1
洋楽機	100.0	27.6	54.9	82.5	3.5	1.3
真空管ラジオ	100.0	74.0	2.6	76.6	3.6	0.4
シンセサイザー	100.0	57.0	2.5	59.5	3.9	1.5
電気洗濯機	100.0	14.4	0.1	14.5	3.1	3.6
電気戸ボンプ	100.0	22.8	0.1	22.9	4.3	3.1
扇風機	100.0	13.5	0.1	13.6	2.9	2.7
電気釜	100.0	12.1	0.2	12.3	3.7	1.9

第4表 耐久消費財の所有状況と購入計画（農機具類）

品目	調査世帯数	所有世帯			過去1年間に入手した世帯	今後1年間に購入計画のある世帯
		1台	2台以上	計		
オートバイスクーター	100.0	18.1	0.6	18.7	6.2	1.0
動力脱穀機	100.0	48.2	0.1	48.3	4.7	1.2
石油発動機	100.0	44.7	1.0	45.7	4.2	0.8
動力耕耘機	100.0	12.4	0.3	12.7	3.3	1.5
精米・精麦機	100.0	7.3	0.1	7.4	0.4	0.1
電動機	100.0	7.1	0.3	7.4	0.3	0.3

2 農家世帯の所得の実績と見通し

農家世帯の現金所得の動きの見通しについてみると、今後1年間に「ふえる」と見込んでいる世帯は25.7%で、「へる」と見込むものは6.4%と少なく農家全体としては所得がふえるものと見込んでいる（第5表）

第5表 現金所得の変動見通し

	調査世帯数	約1割以上ふえる	約5分以上1割未満ふえる	あまり変わらない	約5分以上1割未満へる	約1割以上へる	わからない
総所得	100.0	11.5	14.2	51.4	3.3	3.1	16.5
農業所得	100.0	4.9	3.7	66.2	4.0	3.9	17.3
農外所得	100.0	10.9	16.2	51.3	1.4	2.4	17.8

第5表に示すごとく農業所得の「ふえる」と見込むもの8.6%に対し、農外所得が「ふえる」とするもの27.1%と見込む割合が多いのは第二種兼業農家（農業従）の農外所得の増加によるものと思われる。（第5表）

また、農外所得について、その増減理由の見通しは、「ふえる」とするものは、第二種兼業農家の賃金俸給等の増加が65.9%に達し、逆に「へる」と見込むものは、第一種兼業農家の農外事業収入の減が30.0%と少なくなっている。これは、最近農家の兼業化が進んでいるため賃労による兼業収入が増大しているものと予測される。（第6表）

一方、農業所得の増減見通しを、経営規模別にみると、規模の大きい農家ほど賃金俸給等の農外所得が少なく、反面規模の小さい農家ほど農外所得が増大している傾向がうかがわれる。

第6表 農外所得の増減見通しの理由

	ふえる見通しの世帯数	農外事業の収入の増減	賃金、俸給等の増減	日備、日数の増減	有業人員の増減	その他増減	わからない
総数	100.0	23.5(33.0)	59.7(14.9)	10.7(14.9)	2.1(10.6)	3.0(22.3)	1.0(4.3)
専業	100.0	31.7(25.0)	9.8(5.0)	29.2(5.0)	4.9(15.0)	19.5(40.0)	4.9(10.0)
第一種兼業	100.0	18.5(30.0)	58.9(20.0)	15.5(25.0)	2.6(7.5)	3.4(15.0)	1.1(2.5)
第二種兼業	100.0	26.2(41.2)	65.9(14.7)	5.2(8.8)	1.4(11.8)	0.8(20.6)	0.5(2.9)

注・（ ）はへる見通しの世帯の割合を示す

3 貯蓄増減の実績と計画

過去1年間に貯蓄がふえた世帯は、21.2%であり、貯蓄がへつた世帯も22.4%となつている。

また今後の貯蓄計画では、「ふやす」とするものは全体の28.6%で「変えない」31.3%「へらす」6.8%となり、農家の貯蓄意欲は全国農家の水準（45.6%）よりもはるかに低くなつている。（第7、8表）

第7表 貯蓄増減実績

貯蓄を持っていない世帯	貯蓄を持っている世帯			
	総数	ふえた	変らない	へつた
(13.3)	100.0	21.2	47.7	22.4
(86.7)				8.7

第8表 貯蓄計画

調査世帯数	ふやす	変えない	へらす	わからない
100.0	28.6	31.3	6.8	33.3

また、貯蓄種類別の貯蓄計画をみると、農家と関係の深い農協預金は72.1%と専業農家に多く、ついで銀行などの預貯金は53.2%と第二種兼業農家に目立つて多くなつている。

一方、株式投資信託、債券などへの貯蓄を計画しているものも、第二種兼業農家（10.4%）を中心に次第にふえつつあるものと予測される。（第9表）

第9表 貯蓄種類別の貯蓄計画

	貯蓄をふやさない世帯	貯蓄をふやす世帯					わからない
		総数	農協預金	預貯金	株式・投資信託	その他	
総数	(71.8)	100.0(28.2)	55.8	37.5	8.4	5.8	2.3
専業	(74.8)	100.0(25.2)	72.1	22.1	7.2	6.2	1.4
第一種兼業	(69.5)	100.0(30.5)	59.9	33.3	7.5	5.1	3.1
第二種兼業	(71.4)	100.0(28.6)	39.3	53.2	10.4	6.1	2.1

4 暮しむきの見通し

今後1年間の暮しむきの見通しについてみると、「よくなる」とみるものが全体の18.2%であり、また「悪くなる」とみる世帯が25.3%で今後の暮しむきがよくなるという世帯が少なく、悪くなるという世帯が多くなつている。

これは所得が増加すると見ると同時に、家計費も増大するとみる世帯が相当あるものと考えられる。（第10表）

また、高所得階層に進むにつれて、暮しむきがよくなるもの多くて、その中でも第二種兼業農家ではとくに暮しむきがよくなるものが多い。

第10表 暮しむきの見通し

	調査世帯数	非常によくなる	少しよくなる	あまり変わらない	少し悪くなる	非常に悪くなる	わからない
総数	100.0	1.3	16.9	48.3	19.9	5.4	8.2
専業	100.0	0.2	13.3	47.9	22.5	9.1	7.0
第一種兼業	100.0	1.3	17.6	46.2	21.0	4.9	9.0
第二種兼業	100.0	2.1	19.2	50.7	16.7	3.0	8.3